

# 胃がんリスク検診を受けられる方へ

向日市 長岡京市 大山崎町  
一般社団法人乙訓医師会

最近の研究結果から、採血検査で「血清ペプシノゲン（血清PG）」と「ヘリコバクターピロリ菌抗体（HP抗体）」とを併用して調べることで、胃がんの早期発見の効果が上がることがわかってきました。胃がんのほとんどが、ピロリ菌の感染によっておこる慢性胃炎から進展することが明らかとなってきたからです。

## 胃がんリスク検診に関する10のQ&A

Q 1 胃がんリスク検診は「胃レントゲン検査（バリウムを用いた胃透視）」や「胃カメラ（胃内視鏡）」と違うのですか？

A 1 **胃がんリスク検診は血液検査です。**

「胃炎があるかどうかを調べる検査（血清PG）」と「ピロリ菌感染があるかどうかを調べる検査（HP抗体）」とを組み合わせ、あなたが『胃がんになりやすいかどうかのリスク（危険度）』を分類するものです。

Q 2 胃がんリスク検診では、胃がんが早期に発見できるのですか？

A 2 **胃がんリスク検診そのものは、胃がんを発見するものではありません。**

受ける方の「胃の健康度」を調べて、あなたの胃がんの危険度を3段階に分類します。

そして危険度の高い方については、精密検査（胃内視鏡）を受けていただくようお勧めするものです。

Q 3 ピロリ菌はどのような菌ですか？

A 3 正式名はヘリコバクター・ピロリ菌で、胃の粘膜に生息する「らせん型」の細菌です。どこから感染するのは、まだはっきりとはわかっていませんが、乳幼児期に口から入って感染するものではないかと考えられています。最近では若い方でのピロリ菌の感染率が低下してきているとされていますが、50歳以上の日本人の約7割がピロリ菌に感染しているという報告もあります。

Q 4 ピロリ菌感染症とはどんなものですか？

A 4 ピロリ菌が胃に生息すると胃粘膜に炎症を起こし、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、慢性胃炎、胃がん、マルトリリンパ腫などのいろいろな病気を引き起こすと考えられています。近年の多くの研究から、ピロリ菌を除菌（退治する）ことで、潰瘍の再発予防の効果や胃がんの発症を減らす効果があることが明らかになってきました。

Q 5 「ピロリ菌感染があるかどうかを調べる検査」とはどのようなものですか？

A 5 血液検査でピロリ菌に対する抗体（IgG）を調べます。ピロリ菌に感染したことがある方では陽性になります。

Q 6 「胃炎があるかどうかを調べる検査」とはどのようなものですか？

A 6 血液検査でペプシノゲン I とペプシノゲン II という物質の血中濃度を調べます。この I と II の比が低下していると、胃の粘膜の萎縮が進んでいて様々な胃の疾患が発生しやすい素地ができると考えられています。

Q 7 胃がんの危険度はどのように分類するのですか？

A 7 血清ペプシノゲン検査とヘリコバクターピロリ抗体の結果から下の表 1 にもとづいて、あなたの危険度を A 群、B 群、C 群と分類します。各々の群によりその後の定期検査の推奨期間を定めます。  
ただし、自覚症状のある方はたとえリスクの低い A 群であっても精密検査をお勧めします。

Q 8 ピロリ菌感染者は全員除菌治療をした方がいいのですか？

A 8 2009 年に日本ヘリコバクター学会は「ピロリ菌感染者全員に除菌治療を推奨する」というガイドラインを発表しました。萎縮性胃炎の進行を抑えて様々な胃の疾患の発症予防を考えていく上で、ピロリ菌の除菌治療は必要と考えられています。

**2013 年 2 月には慢性胃炎に対するピロリ菌除菌治療を健康保険で行うことができるようになりました。(胃内視鏡を受けることは必要です。)**

ただし薬剤に対するアレルギーのある方は、除菌治療ができない場合があります。

Q 9 ピロリ菌を除菌すると胃がんにならないのですか？

A 9 ピロリ菌を除菌すると胃がんの発症を 3 分の 1 に減らすという報告がありますが、胃がんの発症をゼロにはできません。

Q 10 「もともとピロリ菌がいない人 (超低リスク群)」と、「ピロリ菌がいたが除菌治療を行ってすでに退治した人」では胃がんを発症するリスクが異なりますか？

A 10 異なります。ピロリ菌に感染したことのある人は、たとえ除菌治療に成功しても定期的な胃内視鏡を受けることをお勧めします。

(表 1 ; A B C 分類)

胃がんリスク検診		ヘリコバクターピロリ抗体	
		陰性	陽性
血清ペプシノゲン検査	陰性	A 群	B 群
	陽性	C 群	

A 群 胃がんのリスクが低い ⇒ 基本的には経過観察。検査希望、症状があれば精検医療機関で胃内視鏡。

B 群 胃がんのリスクが中等度 ⇒ 精密検査 (胃内視鏡)。

異常なければ 2 年毎の定期胃内視鏡をおすすめします。

C 群 胃がんの高危険度群 ⇒ 精密検査 (胃内視鏡)。

異常なければ 1 年毎の定期胃内視鏡をおすすめします。